

# 大府市・洪城郡

## 青少年交流事業報告書



令和7年（2025年）8月

## 目 次

1	事業報告書に寄せて . . . . . P	1
2	派遣団名簿 . . . . . P	2
3	活動記録 . . . . . P	3
4	レポート . . . . . P	9

## 事業報告書に寄せて

まずは、一昨年に引き続き、大府市・洪城郡青少年交流事業が無事に実施されたことを大変嬉しく思っております。

今回、ダンスエンターテイメントを通じて、姉妹都市である韓国・洪城郡に渡航し、現地の高校生と交流できたことは、大府市の高校生にとって初めて海外に友人を持つ貴重な経験となりました。また、初めての渡韓となるメンバーが多い中で、有意義な時間を過ごせたと感じております。

大府から派遣されたメンバーは全員がダンス経験者であったため、ダンスの難易度も一昨年に比べ高いものでしたが、各自が自主練習を重ねて翌日のレッスンに臨みました。ここでも、K-POP 高校の生徒の皆さんの協力により、多くの課題を乗り越えられたと感じております。

コミュニケーション面では、K-POP 高校の生徒たちの高いコミュニケーション力に支えられた部分が多いものの、派遣学生たちも次第に積極的に交流に取り組むようになりました。今後は、言語研修の時間を事前にもう少し確保し、準備を充実させることで、さらに良い成果が期待できると考えております。

文化体験では、韓国の伝統衣装チマチョゴリの着用や洪城郡長への訪問など、前回とは異なる体験を通じて、参加した生徒達にとって忘れがたい思い出となりました。

一昨年と比べ、ダンスの練習や寮生活、文化体験のいずれにおいても、現地 K-POP 高校の生徒の皆さんとより密接に交流ができました。特にダンスでは、一つの作品をともに作り上げることができ、参加した学生たちの満足度も高かったと感じております。

最後に、今回の派遣が両市の関係をより一層深める契機となり、今後のさらなる交流や相互理解の促進につながれば幸いです。



大府市・洪城郡青少年交流事業・派遣団代表

SPG CHEERDANCEPROJECT 櫻井春奈

# 大府市・洪城郡青少年交流事業派遣団名簿

代表 (SPG チアダンスプロジェクト)
HARUNA (はるな)


名古屋経済大学 市邨高等学校 1年	大府東高等学校 1年	大府高等学校 1年	愛知商業高等学校 1年
加古メイラ (かこめいら)	高橋優凧 (たかはしゆうな)	糠谷紗良 (ぬかやさら)	吉川心 (よしかわこころ)
			

大府高等学校 2年	大府高等学校 2年	大府高等学校 2年	大府東高等学校 3年
深谷美桜希 (ふかやみゆき)	岡田春衣 (おかだはるい)	黒田夢乃 (くろだゆめの)	市倉結奈 (いちくらゆいな)
			

引率：文化交流課多文化交流係国際交流員 イ・ハウシ

# 活動記録

7月21日(月)	
時刻	活動の記録
7:00	大府市役所出発
11:00	中部国際空港発
13:35	仁川国際空港到着
16:30	K-POP 高校到着
16:50	入寮説明・オリエンテーション
18:50	ダンスレッスン

派遣生8名は、予定どおり早朝に集合し、韓国への派遣に向けて出発しました。出発前には勉強会および壮行会が実施されており、生徒同士の関係も良好でした。

約2時間の空路移動の後、仁川国際空港に到着し、さらにバスで約2時間かけてK-POP 高校に到着しました。現地ではK-POP 高校関係者による出迎えがあり、生徒たちはオリエンテーションに参加しました。オリエンテーションを通じて、今後の活動についての説明を受け、現地の生徒との初めての交流も行われました。



出発前に



ルームメイトとの顔合わせ



昼食の様子



ダンスレッスン

7月22日（火）	
時刻	活動の記録
9:00	韓国伝統文化体験
11:00	郡守表敬訪問
14:00	ダンスレッスン
19:00	個人レッスン

2日目は朝から、洪州千年文化会館で韓国の伝統文化体験を行いました。この日からK-POP 高校の生徒とともに行動し、交流の機会がさらに増えました。伝統文化体験では、韓国の伝統衣装である韓服に装飾として用いられる紐飾り「ノリゲ」の制作を行いました。

その後、韓服の着用体験を行い、衣装を着たまま徒歩で洪城郡庁へ移動しました。郡庁では多くの職員に迎えられ、郡守・副郡守との会談が実施されました。会談後は庁舎前で記念撮影を行いました。

昼食後は学校に戻り、午後から約4時間のダンス練習を実施しました。生徒たちは集中して取り組み、振付の確認を行いながら発表への準備を進めました。



ノリゲ制作



郡守表敬訪問



昼食の様子



ダンスレッスン

7月23日(水)	
時刻	活動の記録
10:00	ダンスレッスン
15:30	韓国語レッスン
18:30	公演衣装作り
20:30	個人練習

3日目は午前10時からダンス室で、簡単なウォーミングアップと朝食を終えた後、約4時間にわたりダンス練習を行いました。発表会に向けた振付を確認し、休憩時間にも自主的に練習に取り組む姿が見られました。

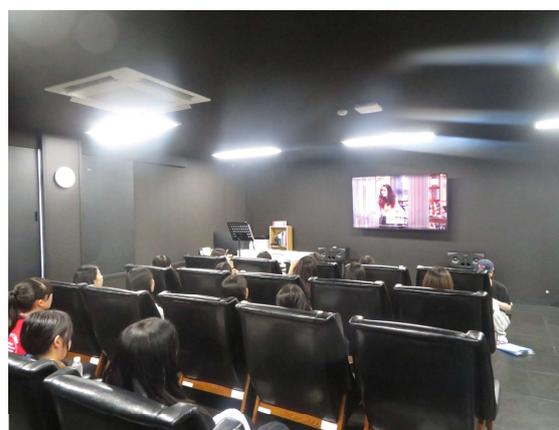
午後からは、K-POPアーティストIUの楽曲「チョウンナル (Good Day)」を教材として韓国語の発音や歌詞の意味を学びました。

その後、翌日の発表に備えたダンス練習を再開し、約1時間半にわたり動線や振付の細部を確認しながら、仕上げに向けた練習が行われました。

夜には、発表会で着用する衣装を自作し、生徒たちは創意工夫を凝らした衣装を完成させました。



ダンスレッスン



韓国語レッスン



公演衣装作り



歓談の様子

7月24日(木)	
時刻	活動の記録
9:20	南唐港海洋噴水公園訪問
11:30	洪城スカイタワー訪問
14:00	ダンスレッスン
20:30	リハーサル及び発表会

4日目の午前中は、南唐港海洋噴水公園を訪れ、水遊びをしました。噴水の中で自由に身体を動かし、暑さの中でも活動的に過ごしました。その後、ネットアドベンチャーを体験し、続いて洪城スカイタワーに移動しました。西海岸の干潟の景色を展望した後、近隣のカフェにて休憩を取りました。

午後は学校に戻り、午後2時から最後のダンス練習がはじまりました。生徒たちは振付や動線を確認しながら、学校の先生からの助言を受けつつ、ダンスの完成度を高めるための調整を行いました。

夕食後には、4日間の練習成果を披露する発表会が開催されました。生徒たちは自作の衣装を着用し、全員が真剣な姿勢で発表会に臨みました。発表は滞りなく進行し、これまでの練習の成果が現れる内容となりました。



南唐港海洋噴水公園訪問



洪城スカイタワー訪問



カフェでのティータイム



発表会

7月25日(金)	
時刻	活動の記録
10:00	閉校式
11:00	退寮
17:00	仁川国際空港発
18:40	中部国際空港着
20:30	解散(大府市役所)

最終日は午前10時より、K-POP 高校で閉会式が行われました。教頭先生からは一週間の練習を振り返る挨拶があり、参加者全員に修了証が手渡されました。生徒たちは記念写真を撮影し、互いに別れを惜しむ様子が見られました。また、ルームメイト同士で写真を撮り合い、連絡先を交換する姿も見られました。

閉会式後、派遣生はバスで仁川国際空港へ移動し、帰路につきました。



閉校式にて

レポーター

## 夢への第一歩

名古屋経済大学市邨高等学校1年 加古 メイラ

私は、同じ夢を持つ人たちが夢の実現に向けてどのような努力をしているのかを知り、自分自身も良い刺激を受けて夢への意識を高めること、そして、韓国と日本の文化の違いを知ること、世界に触れる楽しさや世界とのつながりを感じることをテーマに、この派遣事業に参加しました。

この派遣事業を通して、言葉が通じなくてもダンスを通して心が通じ合い、思いやりの気持ちがあればジェスチャーや表情など、どんな手段でもコミュニケーションが取れることを実感しました。

最初は韓国語への不安がありましたが、現地の学生たちが笑顔で日本語のあいさつをしてくれたことに感動し、一気に心の距離が縮まったように気がしました。ダンスレッスンでは簡単な日本語や英語、ジェスチャーを使って、励まし合いながら、一緒にダンスを踊る楽しさを感じ、言葉を超えて気持ちが伝わる事の素晴らしさを学びました。K-POP 高校で本場のダンスを学び、音楽噴水で水遊びをしたり、韓服を着たり、美味しいプルコギを食べたり、韓国の学生たちと文化を共有できたことはすべてが貴重で、かけがえのない体験でした。

特に印象的だったことは、最後のダンスレッスンで皆が涙を流し、抱き合った瞬間で、それは努力と達成感、別れの寂しさが混じりあった感動的な瞬間でした。また同じ夢を持つパートナーの姿勢から、日々の努力や人柄の大切さ、自分に厳しくあることの重要性を強く感じました。夢を実現させるためには、ダンスや歌だけでなく、人との関わりや思いやりも大切であることに改めて気づきました。これからは言語、表現力、雰囲気づくりなどもしながら、日々の生活の中で努力を積み重ねていきたいと思います。

今回はこのような機会を与えてくださり本当にありがとうございました。自分自身とても成長を感じられた5日間になったと思いますし、もっと成長しなければならないと刺激をもらえたとても濃い5日間でした。ダンスを通して、韓国の方と関わったこと、異文化に触れられ貴重な体験ができたこと、とてもいい思い出となりました。今回感じたことを自分の夢への第一歩とし、また新たな第一歩を踏み出したいと思います。



## ダンスを通して感じた韓国とのつながり

大府東高等学校1年 高橋 優風

今回の韓国派遣では、ダンスを通じて本当に多くの出会いや学びがありました。言葉が通じなくても、ダンスという共通の「ことば」があれば気持ちはしっかり伝わるのだと実感しました。

現地の高校生と一緒にK-POPダンスを踊るワークショップでは、最初はとても緊張していましたが、音楽が流れた瞬間に心がほぐれ、自然と体が動き出しました。笑顔で踊るうちに、お互いの表情や動きから気持ちが伝わり、言葉を交わさなくても通じ合える感覚がありました。そのとき、「ダンスって本当に世界共通なんだ」と強く感動しました。

また、K-POP高校のダンス部の練習を見学したとき、一人ひとりが細かい動きまでこだわり、何度も繰り返し練習している姿に圧倒されました。集中力や真剣さが全身から伝わってきて、「自分ももっと上を目指したい」と心から思いました。普段の自分の練習を振り返ると、どこか甘えがあったことに気づき、意識が大きく変わるきっかけになりました。

さらに、サランちゃんという同い年の高校生とも仲良くなりました。お互いのダンス動画を見せ合ったり、好きなアイドルや練習方法について語り合ったりして、時間を忘れるほど盛り上がりました。最終日前日には、それまで練習してきたダンスを撮影してもらいました。それも大切な思い出となりました。

撮影の後、最後に夜食としてプリンクルチキンをみんなと一緒に食べました。最初の夜食の頃とは違い、みんな楽しく喋りながら思い出を振り返っていました。最終日、別れの時に4泊5日という短い期間でも思い出が濃かったので、涙があふれてきました。

この派遣を通して一番強く感じたのは、「好きなことがあるって、本当に大きな力になる」ということです。ダンスがあったからこそ、言葉の壁を越えて人とつながり、そして自分の夢や目標とも真剣に向き合うことができました。これからもダンスを続けて、もっと多くの人と出会い、世界を広げていきたいです。韓国派遣で得た経験は、私にとってかけがえのない宝物です。「好き」という気持ちを大切に、これからも前向きに、自分らしい道を力強く、そして楽しみながら進んでいきたいと思っています。



## ダンスがつかない笑顔と友情

大府高等学校1年 糠谷 紗良

私はこの5日間でかけがえのない思い出を作ることができました。高校に入学してから新しい環境や出会いで自分の素を出すことができず、最近心の底から笑ったことがほとんどありませんでした。また、自分が人見知りで人と話すのがあまり得意ではないので韓国の学生さんたちと仲良くできるか不安も少しありました。しかし、現地の学生さんや大府市の派遣生の方々と会話をしているときや、現地でダンスを踊っているときには、私は心の底から笑うことができ、本当に楽しいと感じました。だから、この5日間で特に思い出に残っていることについて書きます。

特に楽しいと感じたことは、やはりダンスをしていたときです。最初は習った経験がないというのもあってみんなについていくのが難しく、上手に踊ることができませんでした。また、みんなで一つの踊りをつくりあげていくものだから揃えることが大切になってくるため、列や振りを揃えるのが難しかったです。ですが、個人練習の際にルームメイトの子と一緒に練習をしたときに、細かいところまで直してくれて、できるまで何回も教えてくれました。また、ダンスの先生に体の使い方や上手に踊るポイントを教わったおかげで、初めよりは上手に踊ることができました。そこで、韓国の学生さんのダンスの上手さに驚かされました。練習は大変で難しかったけど、最後にみんなでダンスを撮影していたときは自然と笑顔が出てきて「やってよかった」と思いました。また、今まで一人で踊ることがほとんどだったので、今回現地の学生さんと大府市の派遣生の方々と一緒に踊ってみんなで踊ることの楽しさを知りました。この5日間で学んだ事を部活や今後に活用していきたいと思います。

もう一つ心に残っているのは、南唐港海噴水公園を訪問した時のことです。音楽に合わせて噴き出す噴水の中で、みんなで踊ったり、トランポリンで一緒に跳んだりしたのがとても楽しかったです。びしょびしょになりながらも、みんなで笑い合い、踊ったあの時間は忘れられない思い出になりました。

この5日間で私は人と話すことの楽しさを知りました。また、言葉は違っていても同じ趣味のダンスを通して仲良くなり楽しい思い出を作ることができました。この5日間でできた、たくさんの笑顔と思い出を忘れずに今後活かしていきたいです。



## 韓国で学んだ食文化と心のふれあい

愛知商業高等学校 1年 吉川 心

今回、韓国への国際交流に参加し、食生活や食に関するマナーの違いを大きく感じました。現地では、1日3食に加えて間食もあり、1日を通して6食ほど提供されました。日本では、食事中にお椀やお皿を持ち上げて食べることが一般的ですが、韓国ではお皿を持ち上げることは行儀が悪いとされており、最初は戸惑いました。

また、ビュッフェ形式の食事の際、私はできるだけ残さないように、食べきれぬ量だけを取るようになっていましたが、韓国の学生さんたちはたくさんの量を盛りつけ、結果的に多くの食べ残しが見られました。日本では「食べ物を残さない」「お椀は手に持つ」といったマナーを小さい頃から見ており、周りがしていたからと、自然と身につけてきたため、それが当たり前だと感じていました。しかし、韓国の方々もまた、そうした文化や食習慣の中で育ってきたからこそ、現在のような食べ方が普通なのだと思います。それでも、外国を訪れる際には、その国の文化やマナーを尊重し、それに合わせる大切だと感じました。今後、他の国を訪れる機会があれば、事前にしっかり下調べをしてから行動するようにしたいと思います。

また、今回が初めて外国へ行くということもあり、私はとても緊張していました。しかし、現地の学校に到着すると、明るく温かい雰囲気でお迎えくださり、そのおかげで私も自然と笑顔になることができました。韓国語があまり話せず不安でしたが、韓国の学生さんたちは自分から日本語で話しかけてくれたり、翻訳アプリなどを使ってコミュニケーションを取ろうとしてくれたりと、とても親密に接してくれました。その優しさと心配りがとても嬉しく、心が温かくなりました。

この経験を通して、私も今後、誰かを迎える立場になった時には、相手の気持ちに寄り添い、自分から声をかけられるようになりたいと強く思いました。これは国際交流の場面だけでなく、将来社会に出てからも大切な姿勢だと思うので、今回の学びを忘れずにいたいです。



## 言語が違って心通わせることができた5日間

大府高等学校2年 深谷 美桜希

私がこの韓国 KPOP 留学で学んだこと、感じたことは、言語や文化が違って、互いに支え合い、嬉しさや感動を分かち合えることです。特に「仲間と一つの舞台を作り上げる」との楽しさや喜びを強く実感することができました。

私はダンスが好きですが、得意というわけではなく、この留学で本当に踊りきれぬ不安を抱えていました。それに加え、自主練の時間もほとんどなく、与えられた振り付けを完璧に仕上げるのは難しい状況でした。

初めての合同練習の日、スタジオには大きな鏡と音響があり、韓国語と日本語が入り混じった活気のある声が響いていました。振りを覚えるスピードも表現力も周りの子たちがとても高く、自分だけが取り残されているように感じ、焦りと落ち込みでいっぱいになりました。そんなとき、ルームメイトや韓国の子たちは私の表情を見てすぐに声をかけてくれました。「ケンチャナ、ケンチャナ」と笑顔で励ましてくれるその言葉は、ただの応援以上に温かく、心の支えになりました。特にルームメイトは、私が踊れるようになるまで夜遅くや朝早くに付き合ってくれ、一緒に鏡の前で何度も同じ動きを繰り返しました。音楽を流しながら、「もう一回!」「次はここをそろえよう!」と前向きな声をかけてくれる姿に、心から嬉しくなり、その優しさと根気強さに本当に胸が温かくなりました。

また、練習の合間や夜の部屋では、韓国の子たちと恋バナをしたり、お互いの学校や日常生活について話したりと、言葉の壁を超えてたくさん笑い合うことができました。ジェスチャーや簡単な英語、そして少しずつ覚えた韓国語を交えながら、相手の言葉を理解しようとする時間は、とても新鮮で楽しかったことを今でもよく覚えています。

そして発表当日、舞台袖で待っているときもすごく緊張しましたが、ルームメイトや先生、いろんな人が声をかけてくださり自分なりに後悔なく踊りきることができました。出来栄は完璧ではなかったかもしれませんが、仲間と支え合いながら一つの舞台を作り上げた達成感と喜びは、何にも代えがたいものでした。

この留学でダンスの技術だけでなく、人とのつながりの大切さを学びました。日本では体験できない文化や人との交流を通して、自分の視野が大きく広がったと感じます。短い期間でしたが、この経験は私の中でずっと大切な宝物として残り続けると思います。



## 異文化交流での成長

大府高等学校 2年 岡田 春衣

私がこの派遣に参加しようと思ったのは、部活動でK-POPのダンスを踊るなかでその魅力に気づき、ダンスの幅を広げたいと思ったからです。

K-POP 高校では実に濃い五日間を過ごしました。ダンスの授業では本格的なK-POPのダンスをみんなで作り上げました。私はほとんど初心者なので、ついていけるか不安で、実際とても大変でした。複雑な振り付けて音がとても早く、初めてやる動きばかりで、最初は全然ついていけなかったです。筋トレもかなりハードでK-POP高校の生徒は毎回こなしているのかと思い、尊敬しました。しかし、先生やルームメイトが親身になってできるまで繰り返し教えてくれ、みんなで切磋琢磨していく中で、自分でもわかる程上達していき、途中からは踊ることが心の底から楽しいと感じるようになりました。先生の「ダンスで一番必要なのは自信」という言葉が心に残っています。帰国して次の日から部活に行きましたが、振り付けを覚えるスピードが上がったように感じました。

授業の合間に韓国の文化に触れていき、日本と違いで面白いと思ったことが二つあります。一つ目は連絡手段です。K-POP高校の人たちはよく電話をしていました。日本では電話よりも文字でのメッセージで連絡をとることがほとんどなので不思議に思い、聞いてみると、文字を打つのが面倒だからとのことでした。ハングルは母音のキーと子音のキーが分かれています、組み合わせで一文字にするので国民性の他に日本語に比べて文字を打つのに時間がかかるのが理由なのかなと考えました。二つ目は食事です。食べ物を提供される量と回数が多く、食べきれなくて戸惑いました。残してはいけないと思っていたからです。しかし韓国では食事を残すことは悪いことではなく、もともと食べきれるとして食事を出しているわけではないそうです。また、行く前に予想していた通り辛いものが多かったです。ルームメイトにキムチは辛いけどおいしいと伝えたところ、「私たちにとってキムチは辛いものじゃないよ」と言われてしまい驚きました。

最終日はみんなで写真を撮ったり、連絡先を交換したりしました。ルームメイトが泣いているのを見て私も思わず泣いてしまいました。他の国に別れが惜しくて泣いてしまうような友達ができるとは思いませんでした。ダンスや精神面での成長を期待していましたが、それ以上の大切なものを得ることができました。



## 韓国 K-POP 留学で体験したこと

大府高等学校 2年 黒田 夢乃

私は今回、韓国での K-POP ダンス留学に参加し、K-POP ダンスのレッスンや文化を体験しました。

初日のレッスンでは、アップからすでにとてもきつく、「これから5日間やっていけるのかな」と思うほどハードでした。K-POP 高校の生徒がどれほど努力しているのかを実感しました。レッスンが進むにつれて少しずつ動きになれ、自分に自信ができました。

ダンスの先生にたくさん指摘をもらい、熱心に何度も教えてくれました。韓国語で励ましの言葉ももらい、言葉の意味はすべてわからなくても、気持ちは伝わってきて、「通じ合えるんだな」と思いました。同じ留学に参加していた仲間たちとも自然と助け合い、励まし合いながら練習をする中で、強い一体感が生まれたのも印象的でした。得意ではないからこそ、上手くできた時の喜びはとても大きく、自分の中で小さな成功体験になりました。

ダンスレッスン以外にも、音楽の授業で韓国の曲を1曲歌いました。発音は難しかったけど、パートナーと一緒に練習し、歌えたことが思い出に残っています。休みの時間には、K-POP 高校の生徒がピアノを披露してくれたのも心に残っています。

また、洪城郡のいろいろな場所に行き、水遊びやネット遊び、カフェやコンビニ、スーパーでの買い物、ご飯屋さんでプルコギを食べるなど、初めての経験がたくさんありました。そうした時間を通して、みんなともっと仲良くなれました。買い物のときは韓国の通貨に少し戸惑いましたが、パートナーが会計時そばにいてくれて心強かったです。貴重な体験ができて本当に良かったと思います。

このようなイベント以外にも、寮ではパートナーと話す時間も多かったです。ときには他の K-POP 高校の生徒たちが私の部屋に集まり、恋の話や日本の流行について語り合うこともありました。韓国語は速くてついていけないこともありましたが、パートナーが日本語で話してくれた時はとてもうれしかったです。私が韓国語で話すと、相手が喜んでくれて、もっと話せるようになりたいと思いました。

今回のダンス留学を通して、言葉や文化が違って心は通じ合えるということ、そして新たな出会いの喜びを強く感じました。限られた時間の中で深くつながれた経験は、これからの人生でも多くの人とかかわれる自分になりたいと思える大切なものになりました。



## 楽しかったこと

大府東高等学校3年 市倉 結奈

私は今回、2回目の派遣として、前回とは違うたくさんのことを学び、貴重な体験をしてきました。韓国と日本の文化の違いや、生活の仕方の違いなど、色々なことを知り、有意義な学びにすることができました。

1日目、前回とは違った緊張感を持ちながら韓国へ向かい、現地の方と出会いました。2回目であっても、言語の壁に直面しました。韓国の友達と同じ部屋で生活していくなかで、上手にやっていけるのかとても不安な気持ちでいっぱいでしたが、ルームメイトの子が話しかけてきてくれたおかげですぐに緊張も解け、仲良くなることができました。

その後は、ダンスレッスンや文化体験など、たくさん交流が始まりました。ダンスでは、みんなのうまさに圧倒されて、4日間で完成できるのかと心配ばかりでした。実際にレッスンを受けてみると、ダンス部として毎日練習をしていた自分でもついていけないほどハードでした。ですがその時、「アーティストを目指してK-POP 高校に通っている友達は、毎日このような生活をしているのだ」と考えると、すごいなという気持ちになり、「こんなことであきらめてはいけない」と思えるようになりました。

さらに、言語は通じなくても、ダンスでは心が通じているように感じ、だんだん上手くなっていく姿を見るとすごく嬉しくなりました。それ以降、1日が過ぎていくのが早く感じるほど、毎日楽しく練習することができました。

ダンス以外にも、韓服を着たり、洪城郡で有名な公園に行って遊んだり、全ての体験が最高に楽しい思い出となりました。

このように、5日間の韓国派遣では、楽しいことも辛いこともたくさんありました。ですが、やり切れたのは、日本の友達、韓国の友達がいてこそ頑張りにつながれたのだと思います。きつかった練習も、決して無駄ではなかったのだと終わってから感じました。国境を越えて、海外の方たちと一緒に過ごし、一緒に思い出を作っていく中で、みんなの仲が深まり、すごく楽しい派遣となりました。全てが良い経験になりました。今回学んだたくさんを今後の生活に活かしていきます。

